

明るく山房後

房後連絡協議会 編集
平成十六年十二月二十一日発行
第 二 百 一 十 六 号

さらば平成十六年 2004年

安芸高田市となった今年は、中越地震のような大災害は受けなかつたものの、異字ともいえる気候でした。夏は猛暑に大雷、それに台風も何回かやって来ました。その他いろいろなことのある本年も、あと僅かとなりました。ただ幸いなことに、今のところこの一年間(二一日現在)房後ではそくなられた方はありませんでした。これはとても珍しく文字通り「有り難い」ことです。来年もこの調子で暮らしたいものです。

房後新年互礼会

一月八日(土)午前十一時開会
昨年、立派な「房後房後ふれあいセンター」が完成し、その中の「石出山ホール」は房後の人全員、充分入れる広さになっております。暖房も充分です。それで、新年を迎えるに当たって、房後全体が一堂に会してお互いに挨拶を交わしたらという話を持ち上がりました。ついでには房後連絡協議会がその世話をすることとなり、次のように企画いたしました。

日時は一月八日(土)の午前十一時、場所はふれあいセンターで、「房後新年互礼会」を開催します。会費は千円です。準備の都合もありますので、参加希望者は早めに各行政区長さんに申し込んでください。万障繰り合わせて、出来るだけ多くの方が集まり、盛大な会になることを願っております。

明泉寺年末年始法会

◎除夜会 二月二日夜十一時
◎元旦会 一月一、二、三日午前九時
◎ご正忌法座
一月五日(土) 夜席 八時
一月六日(日) 朝席 九時半
星原 一時
講師 白坊

ちよつとい話

◆山縣との合併が迫っている「丁々たかた」の今月号の表紙に、上安玲子さんが登場しています。なお、バックには、房後の最高峰である「鉄穴」や石川山神社、房後ふれあいセンターも写っています。
◆先月二七日福山で開かれた第六二回音楽マングルのバイオリン部門で古貞祥護君(船佐小五年)が、中学生もいた五十名もの参加者の中、干選、本選を勝ち抜き、ただ一人、最優秀賞に選ばれました。おめでとう。

房後ふれあいサロン

今月一五日の注油めぐりは、参加者二百名、門口を飾るにふさわしい立派な注油綱が出来上がりました。来月は一月十九日で、本協のご心配で午前中は「腰掛けて出来るダンス」の指導を受けます。午後は「新年宴会」を企画しています。ふるってご参加下さい。

町内駅伝

「ご苦労様でした」

当日の応援ありがとうございました。米麦二チームの記録表を左に掲げます。

区	西原 昌利	神田 真二	六	41
1区 一徳天橋 2.70km	7 0:10:57	11 0:11:11	11 0:11:11	
2区 一式放取 2.70km	7 0:10:57	11 0:11:11	13 0:25:40	15 0:14:28
3区 一野路 3.70km	7 0:40:35	12 0:44:31	11 0:18:51	
4区 一ふなき保育園 2.50km	7 0:50:39	3 0:58:44	4 0:14:13	
5区 一中羽信竹奉命所 2.20km	8 1:00:20	13 1:10:19	13 0:11:35	
6区 一東太公民館 2.80km	5 1:13:04	14 1:26:25	15 0:18:06	
7区 一原山市 2.00km	7 1:27:47	14 1:41:12	12 0:14:47	
8区 一房後連絡協議会 3.20km	5 1:40:32	13 1:55:49	11 0:14:37	
9区 一高松谷セクタ 2.10km	5 1:49:53	13 2:04:58	8 0:09:08	
10区 一土屋之内 1.80km	8 2:00:07	13 2:14:24	11 0:00:28	
11区 一船体公民館 3.30km	10 2:18:11	13 2:29:23	12 0:14:59	

西目橋 付橋名板

線地境から清流橋までの県道には、橋が四つ掛かっております。その中で欄干があつて橋名の記されている橋は「西目橋」だけです。松浦五月さん宅と谷川五郎さん宅の間にある新迫川に掛かる橋です。

この西目橋は、多分明治の終わりのころ県道が敷設され、橋が架かった時に命名されたものでしょう。これは小字の「八坪」と「西目」が境を接する新迫川が流れている場所です。だから大野橋か、両方の頭文字の「大西橋」と名付けてもよかつたでしょうが、どうしたわけが西目橋となりました。(尤も、今では植原道路の「房後川」に掛かる橋が「大野橋」です。

なお、以前この欄に書きましたが、四通路にある新迫川の橋には「橋名板」(「房後橋」と書いてあります)と「西目」という地域が、現在の房後四通路を中心南北が小字橋路沖境の老郷常会場辺りから西目橋まで、東西が小字寸志名境の表郷橋から坂本さん宅先の小字橋ヶ段までの耕地や宅地のあるところを指します。

ところで、この西目橋が現在の道路拡張で掛け替え工事があった際に、以前掲げられていた橋名板の廃棄を伴って工事に当たつていた川根の重森さんが持ち帰り供養しておられました。それをこのほど、地元の方で記念に所持したい方があつたら差し上げてほしいと林川宅に届けられました。この橋名板は厚さ一、五センチ、縦三〇センチ、横一〇センチのかなり重さのある鋳鉄製の立派なものです。長四角の枠の中に漆筆で「西目橋」に「しめばし」と彫刻したものが二個ずつあります。所持を希望される方はお知らせ下さい。